

## 平成 29 年度 第 1 回 日野市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会

### 1. 開催概要

日 時：平成 30 年 1 月 25 日（木）18 時 30 分～20 時 30 分

場 所：日野市役所 101 会議室

出席者：(委員) 7 名

(市側出席者) 企画経営課 仁賀田課長、萩原主幹、牧係長

地域戦略室 中平副主幹、白石主任、塩田主任

議事次第：1 開会のあいさつ

#### 2 議事

(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

(2) まち・ひと・しごと創生総合戦略で取り組む交付金事業の状況について

① 地方創生加速化交付金事業

② 地方創生推進交付金事業

(3) まち・ひと・しごと創生総合戦略の各施策の取組状況について

(4) まち・ひと・しごと創生総合戦略の今後の展開について

#### 3 意見交換

4 閉会のあいさつ、今後の予定等

### 2. 会議録

#### ■次第 1 開会のあいさつ

(企画部長) 皆様、本日はお忙しい中、またお足元の悪い中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。この第 1 回まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会ですが、このメンバーでお集まりいただくのは、昨年 2 月以来ということになっております。本日の会議については、その間の市の動きについてのものでございます。数値目標や K P I の進捗状況、国の交付金を使った事業の現在の状況についてご報告したいと思っております。日野市の人口についてですが、1,000 人程増加しており、人口ビジョンに沿った動きとなっております。ということは、2025 年には減少に陥るといのは考えられるところでございます。高齢者が増加している一方で子どもの数が減少しているのは気になるところです。市は、総合戦略の中にポストベッドタウンという目標を掲げております。この戦略についても忌憚のないご意見・ご示唆いただければと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(会長) みなさん、こんばんは。日野市のまち・ひと・しごと創生総合戦略は一昨年に策定されました。これは、国がその前年にまち・ひと・しごと創生法を策定し全国の市町村がそれぞれの地域の特性を踏まえて戦略を策定したものです。この目標の達成度合

いを測るKPIが設定されておりますが、徐々に数字が出そろってきましたので本日はその達成状況についてご確認いただきたいと思います。また、国は人口動向も踏まえて、毎年度総合戦略の改訂を行っておりますが、若年層の東京圏への流出に歯止めがかかっておらず依然として国の施策の中心は地方の人口回復、活性化にあります。今回の改訂でも23区に立地する大学の定員抑制や東京圏以外の地方に立地する大学向けの施策が謳われています。多摩地域はこうした施策から外れている現状がある中で、若年層にとって魅力的なまちとは何か、どうあるべきか危機感を持って考えていかなければなりません。その中で、日野市は生活価値共創都市ということでポストベッドタウンの姿を掲げています。職住近接の観点から新しい産業、生活の質を求めているのがこの総合戦略でもあります。日野市の先進的な取り組みは大いに国に貢献し得る施策となると思っています。特に生活価値共創都市は、持続可能な地域を作るSDGsとも方向性が似通っている部分もあると思います。今後国の改訂に合わせた日野市の総合戦略の改訂も視野に入れつつ、皆様のご意見をいただき、より総合戦略が効果的なものとなるようこの懇談会を進めていきたいと思っております。本日もどうぞよろしくお願いたします。

## ■次第2 議事

### (1) まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

(事務局) 前回から時間が空いてしまったので改めて概要について確認します。国の総合戦略は必ずしも日野市になじまないため、独自で基本計画を立てています。日野市は人口増加数で多摩地域1位であり、増加率についても武蔵野市に次いで2位となっております。しかし、周辺状況を見ると人口減少に転じており、多摩地域の人口増加数は23区の1/9という状況です。日野市の人口は0.3%~1%の安定的な増加率であり、近年女性の増加数が著しく、男女差もなくなってきました。これは産業構造の変化のためではないかと考えられます。

日野市では年少・生産年齢人口は増加しているが、高齢者人口がわずかに減少しており、日野市で掲げる「住み慣れた地域で生き看取られる暮らし」に対しては考えなければいけない点があるようです。

次に、合計特殊出生率について、日野市は徐々に上昇しています。都内で15位から2位へ上昇しています。とはいえ全国平均と比較すると、それほど多いとはいえない状況です。死亡数が増加する中、出生数は頭打ちだが近年わずかに上昇しており、現在は出生数の方が上回っている状況です。ただ、この状況も数年のうちに逆転するのではないかと考えております。区画整理等による現役世代の人口増加があり、そのため合計特殊出生率が上昇しているのではないかと考えられます。現在の人口推移は良い状況ですが、域外の日野市に対する認知度、選択意向は低い状況でした。こういった傾向を維持するためにはプロモーション等が必要ではないかと考えています。

工場の撤退・移転も進み、東芝やメグミルクの跡地は物流工場となっております。日野自

自動車についても移転が進んでいる状況です。一方、市内の従業者数は2012年と比較して回復しつつあります。他地域からの製造業の立地（昭島市からHP社が移転など）やイオンモールの立地の影響によるものではないかと考えられます。

10年前には日野市は職住近接が出来ている状況でしたが、市内での職住近接環境は悪化しています。しかし、23区への通勤者も減っている状況であり、その分、多摩地域（特に八王子市、立川市、府中市）が受け皿となっています。これは、少し大きな目で見れば、職住近接が概ね出来ていると言えるのではないかと認識です。

（会長）ありがとうございました。面白いですね。皆さん今の話について質問はありますか。

ーなしー

（2）まち・ひと・しごと創生総合戦略で取り組む交付金事業の状況について

#### ①地方創生加速化交付金事業

（事務局）平成27年度から継続しており、交付金事業については平成27年度のみでした。日野市版ローカルイノベーション環境の創造を目標に、住民・企業・大学が対話し、新たな事業創出を行うこととしている。現在、4つのテーマが動いており、いずれも国の総合戦略の方向性にも一致していると考えられております。

#### ②地方創生推進交付金事業

（事務局）問題認識としては、ベッドタウンの急速な高齢化が挙げられます。都心外縁部のベッドタウンは、高齢課題の先進地域ではないでしょうか。一人暮らしの高齢者も急増する中、住みかえの需要に応えることが必要ではないかと考えました。市の多摩平地区では団地再生と合わせて、病院や介護施設、医師会施設、保育施設等を集約化しました。この中で社会コミュニティを醸成し、様々な主体で課題やビジョンを共有するところから始めてみようと考えています。多摩平地区も含めたモデル地区としては高幡台、平山、多摩平地区から展開想定しており、その後、全市に拡大していく見込みであります。KPIは、住み替え人数、就労人数、社会参画人数であるが、住み替え・就労は年度末計測予定のため今後のご報告となります。社会参画人数については、HiKnow!のまち記者育成講座への参加者で考えており、目標10名に対して実績値は14名です。

（会長）ありがとうございました。皆さん今の話について何かありますか。

（委員）現在、区内から2時間かけて通勤していますが、日野市に来て季節感や生活感を感じるようになりました。人間らしい生活をしていると実感しています。

（3）まち・ひと・しごと創生総合戦略の各施策の取組状況について

（事務局）経済センサスに絡む進捗については結果が3月公表予定のため、次回の報告とさせていただきます。基本目標1については、おおむね順調でした。ただし1-2-2に関しては、実績値が基準値を下回っている状況です。オープンデータの活用イメージが提供者である市職員に理解されていないためではないかと考えられます。そのため、利活用のイメージを提供者・利用者の双方で育む取組みを行っています。基本目標2は、

国の調査結果等が出ておらず空欄が多いですが、それ以外はおおむね順調です。2-2-1の待機児については平成27年度と比べて平成28年度は19名増加しています。市では保育所の整備に取り組んでおり平成31年度までに各年度に数園開設予定です。基本目標3は、数値目標について、転出超過数が基準値を割り込んでいます。また、基準値を割り込んでいるのはTOYODABEER、地域懇談会参加団体数などです。ただしTOYODABEERについては、出荷本数は、ほぼ前年と同数で推移しています。伸び悩んでいる理由は要冷蔵商品であることと認知度が低いことではないかと考えられています。友好都市でのPR、市内図書館でのイベントの開催等を行っています。また、自立化についても実行委員会で案を検討しているところです。子育て情報サイトのアクセス数は順調に推移しています。産前産後ケアは対象を産前産後3か月から母子手帳交付後産後3か月までに拡大しています。基本目標4の特定健診では受診率が低下しており、原因を精査していく必要があります。また、4-1-3は低下しています。市の運動事業においても、高齢者の参加は増えていますが、現役世代の参加は伸び悩んでいます。そのため、現役世代対象の事業を行っています。ウォーキング事業においては、文化スポーツ課・健康課で連携してマップ等の作成を行っています。

(会長) 事業所で行っている健康事業等も連携してカウントするようなことはあるのでしょうか。

(事務局) 取り組みに関する連携はあまりないですが、ピンクリボンのPRや摂食嚥下関係でのPRは一緒に行っています。また、実践女子大学の学生が多摩平の団地に入り、一緒に運動する取組みを行っています。

(委員) 保育園の話に付随して、幼稚園の話が気になっています。特に民間の幼稚園は今後運営が厳しくなっていくと思われませんが、そこについてはどうでしょうか。

(事務局) 幼稚園のニーズは落ちています。適正化を考慮し、再編も考えています。民間の幼稚園については認定こども園等新たな仕組みも出来ていますが今後の課題であると考えています。

(委員) それから丘陵地の空き家を応援する取組みをされていて、地域の学生やNPO等に活用してもらう取組みに力を入れている日野市はすばらしいと感心しています。先日も、平山にある浅川リバーハウスを見ってきましたが、平山の住宅街で浅川の目の前にあるのですが、PlanTの前より人通りがあるとお話されていました。自転車の方も多いのでカフェを行ったり、またフィルムコミッションの引き合いも複数件あり、これで賄えるのではとの話もありました。地域の連携も図れていて、奇をてらっていない良い事例ではないかと思ひ、こういうところがまちの活性化に生きてくるのだと思います。今は実験的に行っている取組みかもしれませんが、どんどん民間に任せ、市ではなく民の力を活用していくのが良いのではないかと思います。

(事務局) 生涯活躍のまちでも入れている視点であり、良い事例をつくりながら、広域連携で取り組んでいきたいと考えています。

(委員) 特に丘陵地のまちに関しては、将来子どもが戻ってこないまちになっていくのではないかと考えています。三鷹市は親の調子が悪くなると戻って来られるまちですが、日野市や八王子市となると少し厳しいと感じています。特に業務系の男性の雇用の確保ができる場をつくるのが重要だと思います。他市との連携でも構わないので、確保していくことが重要だと思います。

(事務局) 特に京王線沿線が厳しい印象です。働く場が少ないような印象があり、大きくなくても良いので小さな雇用が必要ではないかと考えています。鎌倉に今泉台という平山に近い地域がありますが、テレワークスペースを設けていくという話があり、そうした事例を参考にしながら検討していきたいと思います。

#### (4) まち・ひと・しごと創生総合戦略の今後の展開について

(事務局) 国の人口減少には歯止めがかかっていない状況であり、出生数は統計開始以降初めて 100 万人を下回った状況です。東京の一極集中についても若年層を中心に歯止めがかかっていない状況であります。若年層は各中核市から東京に向かい、各中核市は周辺自治体から人口を吸収しています。例外は 23 区から転入超過である埼玉県のみとなっております。多摩地域についても 23 区への転出超過が続いている状況です。職についても有効求人倍率が全国で 1 倍を超えており、43 年ぶりの高倍率で、好景気であると言えますが、今後恒常的な人手不足が生じると考えられます。また、東京圏と地方の所得格差が顕著となっております。今後は地方に多い介護医療関係者が東京圏でのニーズ増大に伴って東京圏に吸収されるのではという懸念もあります。日野市は諸力融合により新しい価値を生み出すこととして、生活価値共創都市を掲げています。リビングラボはこれを実現する手段であると考えておまして、メリットとしては、これまでコミュニティ活動に出てこなかった男性を地域に引っ張り出すことができるということです。企業からも、新しい産業の視点を得られるとの期待があり、熱心に取り組む企業が増えています。リビングラボ、ひいては生活価値共創都市については、国の推進する SDG s にも合致していると考えております。これまで進めてきたことが国の総合戦略や都の方向性にも合致してきており、今後も深化させていく予定で検討しております。

#### ■次第3 意見交換

(委員) リビングラボはどういった場所で行うことを考えていますか。

(事務局) それほど大きな場所は不要であり、鎌倉の今泉台では空き家やコミュニティスペースを活用しています。平山で言いますと平山台小学校の跡地であるとか、多摩平であれば PlanT 等が考えられるのではないかと考えています。

(委員) 空き家や学校跡地を活用して日頃から男性が通える場所が必要ではないかと考えていて、そうしたコミュニケーションを取れるきっかけが、万が一の災害時等にも役に立つのではないかと考えています。退職後の行き場がないのは問題だと思います。そうした視点もリビングラボに求められるのではないかと考えています。

(委員) リビングラボも TOYODABEER と同じで市役所の人が主催して全部やってし

まうのではなくて、各地域の人々や自主的にやりたいと思っで行っている人を市として裏方で応援する、あるいはちょっとした補助金を出して最初のきっかけだけ作るなどすることで継続性を確保するべきではないかと思ひます。

(事務局) まずは統一の目標を持ってもらふことが大事だと思っけています。鎌倉でも東京大学がグリップしており、自立できる仕組みがあるわけではないと思っけています。日野市としても当然、継続した取り組みを目指すことは大事だと思っけています。そこには大学や地域の協力も欠かせないと思っけています。

(委員) 市に求められるのは、そうした大学や地域、企業をつなぐ役目なのではないかと思ひます。

(委員) 場所についても市の施設を決め打ちで使うのではなく、やりたい人々がやりたい場所で行ふことを応援するくらいの方が良いと思ひます。

(委員) 男性が好きそうな取組みだと感じます。女性はそもそも居場所が多いですから。

(会長) 企業もこの取組みに関しては相当の興味を示しているのでしょうか。

(事務局) 鎌倉では SMBC グループが企業を探してきて、その企業が大学に調査費を支払って廻しています。

(会長) そういった循環は良いと思ひます。

(委員) 大学が絡むのが面白いのではないかと思ひます。誰も損しない気がしますので。学生にとっても良い社会経験ですし、企業にとってはそうした経験がある学生を取りたい思ひがある。

(委員) 大学もアクティブラーニングとして実践的な取組みが求められています。こうしたところで学生が考えながら参加すると、学生のためになります。また、年齢差のある男性と何かに取り組むということは、企業の面接でも年配の男性が多いので、実践的で良い影響があるのではないかと思ひます。

(事務局) 大学の価値を高めるためのリビングラボは面白いと思われれます。

(委員) 話が変わりますが、都心の方に R65 という不動産屋があるという話を聞きました。高齢者の独り暮らしが保証人の問題で賃貸に住めないという話がありますがそうした方々を対象とした不動産屋のようです。働く場所と住む場所、コミュニティを含めた支援があれば面白いと感じました。

(委員) 60 歳を過ぎても働ける場が多くあれば、みな生き生きしてくるし、年金の圧縮にもなりますし、色々な部分が効率的に循環してくるような気がします。

(会長) 高齢単身世帯が増える中、ハードもソフトも対応しきれていない。企業の先端的な取組みにもつながる話であると思ひます。

(委員) 技術屋として働いてきて自発的にはビジネスを考えられない人でも、その腕を必要としている企業があると思ひます。そういったマッチングもあれば良いと思ひます。

(委員) そうした方々は経験が多い分、一般論だけでも役に立つことが多いと思われれます。

(委員) シルバー人材センターでは、若手のシニアが入ってこなくて困っているようです。若手のシニアの再任用等が増加し、年金の受取期間以前にはボランティア的ではなく、これまでと同じような仕事を求めているためのようです。さらにセンターとしては今まで在籍していた 80・90 歳代のシニアが辞めないのも、その年齢でも出来るような新しい仕事も考えていかななくてはならないという課題もあるようです。

(事務局) 社会環境の在り方や仕事の仕方が今後検討すべき課題であると思います。特に男性の孤独が問題となっていて、イギリスでも孤独大臣が誕生するなど、孤独男性の存在は先進国共通の課題となっているようです。

(委員) 産業の取り組みは大事で、高齢者や子育てに特化した取り組みだけではなく、日野市には一歩進んだ取り組みを行ってほしいと思います。

(委員) 日野市は中央線、京王線に支えられていて、ある程度は人口の維持は出来ると思いつつも、とはいえ高齢化への危機感を感じていかななくてはいけないと感じました。

(委員) 日野市では居場所づくりに取り組んでおり、中学校区ごとに話し合いをしてもらっているところです。人カードと場所カードを組み合わせ、居場所をつくるゲームをしていて、それに付随するお金や時間についても考えているが、必ずしも日野市に補助を受ける話が出てきていません。自分たちでやってみようという良い雰囲気が進んでいると感じますので時間をかけて取り組んでみたいと思います。

#### ■次第4 閉会のあいさつ、今後の予定等

(事務局) 多くの意見をいただきまして、ありがとうございました。次回の懇談会は平成 30 年の秋ごろに平成 29 年度の実績値が出そろってから開催させていただきたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。